

畳の積み木「たたみたす」の開発

共同開発：株式会社佐々商（大分県宇佐市）

- | | | | |
|----------------|------------------|--------|--------------------|
| ■大分県産業科学技術センター | 製品開発支援担当 研究員 | 佐藤 寿喜 | h-sato@oita-ri.jp |
| | 製品開発支援担当 上席主幹研究員 | 佐藤 幸志郎 | satokou@oita-ri.jp |
| | 製品開発支援担当 主幹研究員 | 兵頭 敬一郎 | hyoudo@oita-ri.jp |

研究のポイント

- 畳特有の触り心地、香り、柔らかさが活きるよう、畳の伝統技術である縫製により成形
- 想定外の変形により、子どもの想像力を刺激
- 人間工学を用いて、子供の手に合わせた大きさや重さ、柔らかさなどを考慮し設計

背景と課題

住宅の西洋化に伴い、触れる機会が減少している畳。畳の間で育った祖父母・親世代は、畳の良さを感じとれますが、共感できない子ども・孫世代が増えています。

この原因の一つに「畳の原体験の喪失」があり、畳文化の継承と需要拡大のためには、次世代を担う子どもたちのもとに畳を届けることが急務であると考え、玩具の開発に着手しました。

研究内容

《本商品の特徴》

- ① 畳特有の触り心地、香り、柔らかさが活きるよう、接着剤を極力使わずに、畳の伝統技術である縫製により成形（図1）。
- ② 想定外の変形により子どもの想像力を刺激（図2）。
- ③ 人間工学を用いて、子供の手に合わせた大きさや重さ、柔らかさなどを考慮し設計（図3）。

《進行上のポイント》

- ・ターゲットユーザー（親と子）のニーズ調査として、ユーザビリティテストを実施（図4）。
- ・アイデアに留めず、積極的に試作を行い検討。
- ・クラウドファンディングにてテストマーケティングを実施し、需要と商品の満足度を確認。目標金額の3倍を超える応援金額を達成し、商品化の契機となる評価が得られました。

今後の方向性

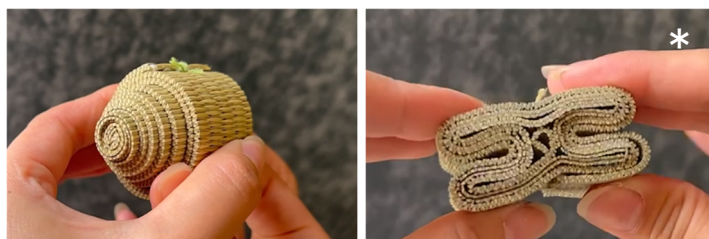
本商品に留まらず、畳を使った商品やサービスを同社にて開発継続予定です。藁草の生産地である熊本・八代をはじめ、各県に点在する畳業者や業界外の方との連携などを想定しております。

お気軽にお問い合わせください。



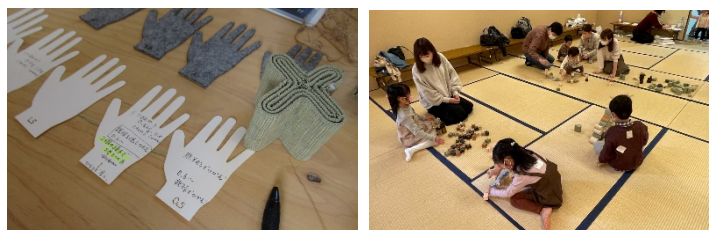
【図1】畳表の端材でできた積み木「たたみたす*」

*商標登録済（第6682274号）。



【図2】想定外の変形により子どもの想像力を刺激

*意匠出願中（2023-103, 2023-104）。



【図3】人間工学設計



【図4】ユーザビリティテスト